

時代	社会のできごと・三重県内のおもな遺跡	焼き物のうつりかわり・解説	
原始	旧石器時代 狩猟・採集の生活 出張遺跡（大台町） 日本列島の形成	 縄文土器	縄文土器 素焼きできめが粗く、ぶ厚い。押型・縄文などで装飾される。 弥生土器 縄文土器の流れをくむが、きめ細かく薄手。地域によって形の違いが大きい。櫛描文やへらミガキが施される。 土師器 弥生土器の流れをくむが、地域による形の違いが少なく画一的。装飾性が乏しい。
	縄文時代 土器が焼かれる 弓矢の使用 粥見井尻遺跡（松阪市）大鼻遺跡（亀山市） 森添遺跡（度会町）天白遺跡（松阪市）	 縄文土器	
	弥生時代 稲作が伝わる 金属器が伝わる 納所遺跡（津市）金剛坂遺跡（明和町） 各地にむらができ、争いがおこりくにができる 女王卑弥呼が邪馬台国を治める	 弥生土器	
古代	古墳時代 近畿地方に大きな古墳がつくられる 近畿地方に大和朝廷（大和政権）が誕生 御墓山古墳（伊賀市）宝塚古墳（松阪市） 城之越遺跡（伊賀市）六大A遺跡（津市） 538年 仏教が伝わる（552年説あり）	 土師器	須恵器 5世紀に朝鮮半島から伝わった陶質土器。窯で焼かれ、硬く青灰色。緑釉陶器 鉛・銅などからつくった釉薬をつけて焼き上げた、緑色の陶器。平安時代の高級品である。灰釉陶器 灰白色の素地に草木灰からつくる釉薬をつけて窯で焼かれた陶器。東海地方で生産。 黒色土器 土師器の表面にへらミガキを施し炭素を吸着させた黒色の土器。東海地方で生産された。 瓦器 黒色土器の流れをくむ黒灰色の土器。西日本で生産・使用される。 貿易陶磁器 おもに中国から輸入した高級品。青緑色の青磁、灰白色の白磁、染付などがある。 瀬戸・美濃・常滑 中世以降各地で独自の窯業が営まれる。六古窯が有名で、現在も窯業地である。 国産磁器 近世初頭に、佐賀県有田周辺でつくられたのがはじまり。
	飛鳥時代 593年 聖徳太子が摂政となる 645年 大化の改新 672年 壬申の乱 夏見廃寺（名張市）縄生廃寺（朝日町） 律令制度が整えられ、斎王制度がはじまる	 土師器	
	奈良時代 710年 奈良に都がつくられる（平城京） 743年 東大寺大仏造立の詔（大仏の完成） 伊勢・伊賀・志摩国分寺（鈴鹿市・伊賀市・志摩市） 鈴鹿関跡（亀山市）	 土師器・須恵器	
	平安時代 794年 京都に都がつくられる（平安京） 藤原氏が摂関政治をおこなう 齋宮跡（明和町）朝見遺跡（松阪市） 1086年 白河上皇の院政がはじまる 武士の台頭（源氏・平氏） 雲出島貫遺跡（津市）朝熊山経塚群（伊勢市）	 黒色土器 貿易陶磁器 緑釉陶器 土師器・灰釉陶器	
中世	鎌倉時代 1185年 平氏滅亡・守護地頭の設置 1192年 源頼朝 征夷大將軍となる 1274年・1281年 元寇（文永・弘安の役） 岩出遺跡群（玉城町） 1334年 後醍醐天皇による建武の新政	 山茶碗 土師器・山茶碗	瀬戸・美濃・常滑 青磁 瀬戸
	室町時代 1338年 足利尊氏 京都に幕府をひらく 南北朝の動乱つづく（～1392年） 1467年 応仁の乱 多気北畠氏遺跡（津市）田丸城跡（玉城町） 鳥羽城跡（鳥羽市）赤木城跡（熊野市）	 瀬戸・美濃・常滑	
	安土桃山時代 1590年 豊臣秀吉が全国統一 1600年 関ヶ原の戦いで東軍勝利	 瀬戸	
近世	江戸時代 1603年 徳川家康 征夷大將軍となる 街道が整備される 東海道 関宿（亀山市） 熊野参詣道 伊勢路（熊野市～玉城町） 1867年 大政奉還	 国産磁器	